

自治会で取り組むイノシシ・サル被害防止対策

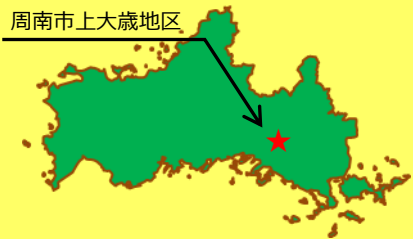
1 要旨

周南市上大歳地区では、平成20年度から自治会が集落ぐるみで総合的な鳥獣被害対策を行ってきた。しかしながら、近年のイノシシやサル等の生息頭数の増加や防護柵の老朽化、加えて平成30年度西日本豪雨による防護柵の損壊により、加害獣の侵入による農作物の被害が増加した。そこで再度集落点検を元に活動方針を作成し、防護柵の補修や新たに大規模緩衝帯の維持管理作業の省力化など、実践活動を開始した。

2 地区の概要

地区名	周南市上大歳地区
戸数	50戸
耕作面積	田3.3ha、畑1.5ha
主な作物	水稻、野菜
加害獣種	イノシシ、サル
対策実施年度	平成30年度、令和元年度

周南市上大歳地区



3 被害の状況と課題

- 平成20年度頃からイノシシやサルの被害が増加し、生産意欲の減退等により作物栽培を辞める人も出てきた。そこで、山口型放牧による耕作放棄地の解消、モンキードッグの育成や花火によるサルの追い払い活動、集落環境調査結果に基づく大規模緩衝帯の整備や電気柵を併用した防護柵の設置（約2km）等、総合的な鳥獣被害対策に取り組んできた。
- しかしながら、近年のイノシシやサルの生息頭数の増加や防止柵の老朽化、平成30年度西日本豪雨による被災（防護柵の損壊）により、加害獣が再び侵入し始め、農作物の食害やほ場の畦畔・法面の破損が増加してきた。



山口型放牧により管理している山際の圃場



維持管理している大規模緩衝帯（草刈り等：3回/年）



防護柵の点検（平成30年西日本豪雨により損壊）

4 取組内容

(1) 活動方針の作成

- 住民と関係機関により、加害獣の出没状況や防護柵の状況等を点検し、地図にとりまとめた。また、話し合いの中で地域住民の高齢化により大規模緩衝帯の維持管理活動の負担が増大していることが分かった。
- 点検結果をもとに、防護柵の補修やヤギ放牧による大規模緩衝帯維持管理活動の省力化等を取りまとめた。



(2) 実践活動

- 大規模緩衝帯と電気柵を併用した防護柵の管理を自治会で実施している(3回/年)。大規模緩衝帯にヤギを放牧し、維持管理活動の省力化を図っている。
- 猟友会と連携して加害獣の計画的な捕獲を行っている。

5 取組の成果

- 大規模緩衝帯でヤギの放牧を行い、管理作業が大幅に省略できた。
- 電気柵を併用した防護柵の適切な管理により、加害獣の出没が減り被害額が減少した。

【被害額】

(千円)

区分	事業 実施前	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
イノシシ	732	467	▲265	192	▲540	26	▲706
サル	1,092	834	▲258	94	▲998	46	▲1,046

6 地区代表者のコメント

ヤギの放牧を実施したため、下草がほとんど生えないので、緩衝帯が十分機能している、そのため特にサルの追込がほとんどなくなった。

また、サルの捕獲が進みサルが危険地帯と思い、当地区にはほとんど出なくなった

7 今後の取組

イノシシ対策には、捕獲と正蓮寺川(市管理)の左岸側300mにわたり、フェンスと電気柵を追加設置する必要がある。また、サルの捕獲は引き続き実施していく。